

令和7年度使用教科用図書採択検討委員会＜高等学校専門部会＞議事録

日時 令和6年（2024年）7月17日（水）15時15分～16時25分

場所 横須賀市教育研究所 第2研修室

1 開 会

（事務局： ）

本日は大変お忙しい中ご出席いただき、ありがとうございます。本会は、採択決定後、会議録が公開されます。正確な記録を残すために、本日の内容を録音させていただきます。ご承知いただけますでしょうか。ありがとうございます。では、録音させていただきます。

この会議は「教科用図書採択検討委員会条例」第4条の規則に従い、半数以上の委員の出席により成立いたします。本日は21名中21名の出席をいただいておりますので、これより会を始めさせていただきます。

2 教育委員会事務局挨拶

（事務局： ）

教育委員会教育指導課長 〃よりご挨拶いたします。

（教育指導課長： ）

お忙しいところ、お集まりいただきありがとうございます。本日は、8月の教育委員会に提出する調査報告の作成をお願いいたします。

今回、目録に掲載されている教科書の中から、全日制、定時制ともすべての教科書を調査対象としていただきました。

このような膨大な数の中から、限られた時間で横須賀総合高校の生徒にもっともふさわしい教科書を調査する作業はとても大変なものであったと思います。

改めまして、調査部会員の皆様のご尽力に、心から感謝申し上げます。

また、第1回目の会において、採択基本方針の確認をいたしました。また、再度、公正確保と綿密な調査に基づく採択原案作成へのお力添えをお願いいたします。私の挨拶といたします。どうぞよろしくお願いいたします。

3 専門部会長 挨拶

（事務局： ）

続いて、部会長 〃からご挨拶をいただきます。

(部会長)

本日は、お忙しいところ、お集まりいただきましてありがとうございます。この採択検討委員会ですが、課長の挨拶にもありましたとおり、大変重要な会議となっております。ここで決定したことを8月15日に行われる横須賀市教育委員会臨時会に提案してまいります。そこで教育委員の皆様には採択をしていただいて、晴れて使用できる教科書ということになります。そのための資料提供、そしてその内容の審議ということで、委員の方々からの様々なご質問もあろうかと思っておりますので、ぜひ真摯に答えていただいて、解釈を充実させていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

4 会議の進行について

(事務局：)

この後の会の進行について説明します。

一覧表の中で、ゴシック体、太字で表記してあるものは、これまで採択していた教科書を変更しようとする科目です。変更しようとしている教科書は1点、定時制の通し番号28 書道Ⅰのみです。その理由は、これまで使用していた教科書が、令和7年度は発行されないためです。

また、令和7年度については、定時制において、引き続き2つの教育課程が混在することになりますので、必要に応じて、従来の学習指導要領に基づいて編集された教科書を採択しようとしています。しかしながら、令和7年度使用の教科書目録によれば、従来の学習指導要領に基づいて編集された教科書の発行は19点のみにとどまり、多くの科目においては、該当する教科書が発行されません。発行される教科書がない場合には、現行の学習指導要領に基づいて編集された教科書を使用することとなります。

各教科の説明は、作成していただいた教科用図書一覧表の通し番号順にお願いいたします。

全・定ともに13教科ですので、科目の少ない教科は時間を短縮してご説明いただければと思っております。

工業・商業の教科については、時間の関係で、1科目ごとではなく、特徴的なもののみに、まとめて説明していただければと思います。

この後、目録をこちらから回覧していただきます。それぞれの教科で選定しようとするものに、を片仮名書きで、全日制のところに「ゼ」、定

時制のところに「テ」と印をつけておりますので、再度確認をお願いいたします。

それでは、この後の進行は部会長をお願いいたします。

5 調査報告

(部会長)

それでは、次第に沿って定時制から全日制の順で行います。

定時制の先生方は、この後授業がございますので、30 分程度で説明していただき、その後、質疑応答を行い、確認ができた段階で退席していただきます。定時制は複数教科をまとめて審議します。

全日制は、委員からの説明を、教科ごとおおむね3分以内で行っていただき、その後一括で質疑を受け、決定とします。

説明は、採択選定理由書様式2に沿って行ってください。

この会で取りまとめたものを、この後開催される採択検討委員会で提案させていただきますので、全体が16時30分には終了するようご協力ください。

それでは、定時制の課程から審議を進めてまいります。定時制の先生、先生、説明をお願いします。

(1) 定時制

(調査部員： 調査部員)

定時制の教科用図書採択候補について説明します。定時制の教科用図書採択一覧表をご覧ください。

令和7年度につきましては、一部の4年次生が従来の課程に残り、ほぼ現行の課程に移行します。現時点で7名程度の生徒が従来の課程で残るという状況です。従来の課程の教科書の発行がほぼなくなる中、候補の一覧では、番号26と41は継続発行がございますので継続、ただし番号28番 書道Ⅰに関しては、これまで使用していた従来の課程の教科用図書が発行されなくなったため、従来の課程の唯一の教科用図書に「変更」とさせていただければと思います。

続けて、1年次から3年次までが使用する教科用図書につきましては、候補としては今年度と同じものを選定しております。その理由は、各教科で使用しているものが、スクール・ポリシーおよび指導の重点に基づいて、最もふさわしく、また使用している中で大きな問題もないと各教科担当で判断したからです。

次年度、1年次から3年次までの生徒の使用する教科用図書の採択候補につきましては、本年度と同様の希望として選定理由書を提出しています。よろしくお願いします。

(部会長)

ご説明ありがとうございました。ただ今の説明について、ご質問等がありましたらお願いします。

〔質疑・意見〕

(委員)

まず、冒頭課長の挨拶の中にもありましたが、調査部員の先生方、この非常に膨大な資料作成に時間を割いていただいたこと、大変だったと思います。小中学校に比べて高等学校は科目数も、それに伴う教科書の数も多いわけで、一つ一つに対してこれだけの理由書を作る作業にまず敬意を表したいと思います。

それから、今年度は継続する教科書が非常に多く、ほぼ全てということですがけれども、それだけ昨年度の選択に時間をかけた成果が出ているのだろうと考えます。変えることが悪いことではないと思いますが、それについては精査されているのかなということを全体の感想として思いました。本当にご苦労様です。

1点、定時制に対する質問の前に、事務局にお伺いしたいのですが、この理由書には「継続」、「新規」、「変更」というように3種類に分かれていますけれども、継続は理解できるのですが、新規と変更についてどう区別されているのかを教えてくださいということが一つ目の質問です。

もう1点は、5年次以上の、従来の課程の生徒に対しては従来の課程の教科書を使うということですがけれども、それが発行されない場合は、現行の課程の教科書でもいいと言われているわけですが、今回は書道Ⅰですが、これは従来の課程の教科書がある場合、従来の課程のものを使わなければいけないという縛りがあるのか、以上2点を事務局に質問です。

(事務局：)

1点目の新規と変更の違いについてですが、新規はこれまで採択をしてなかった科目の教科書を新たに採択しようとしているものです。今回

については、新たに設置しようとしている科目がないので、新規に採択しようとしているものではありません。

前年度、令和6年度使用教科書を採択する際には、3年次生向けのものがすべて現行の教育課程に基づいたものになりましたので、すべて新規になりましたが、今年度はそういったものはありません。次に変更については、これまで採択をしていた科目の教科書を採択せずに、代わりに別の教科書、今回の書道Ⅰのような形で採択しようとしているものを変更ということで区別しています。

(部会長)

新規というのは、これまでに採択としていなかったか、もしくは指導要領が改訂になって、その改訂指導要領に基づいて新しく作られた教科書、そのどちらかの時にということになります。

(委員)

去年は新規になった部分はあるけれども、今年度は新教育課程に関係ないから基本的には新規ではなくて変更という形になっているということで、わかりました。

(事務局：)

2点目の、従来の教科書がある場合に、現行の教科書を選ぶことについてですが、令和3年度まで入学した、先ほど7名ということで予定されているという生徒については、従来の学習指導要領に基づいた教育課程によって教育活動を行いますので、従来の学習指導要領に基づいて編集した教科書を使用することが原則です。教科書の発行がないものについては、現行のものを使用しますが、指導はあくまでも従来の学習指導要領に示す内容ということになります。よって、従来の課程のものがある場合には、そちらを採択しなければならないと解釈しています。

(米持部会長)

それは文部科学省の規定に示されているということでしょうか。

(事務局：)

はい。

(中山委員)

多分そうだろうと思いながら、でも教える立場からすれば現行のものでもいい科目があるのだったら、それで行った方がみんな教科書が統一されてよいのではないかなという思いで質問させていただきました。

続けて質問です。定時制は何年まで在籍できますか。

(調査部員)

最大8年、在籍期間がございます。

(委員)

そうすると来年度以降もこういうことが起こる可能性があるかもしれない。従来のものが継続して発行することは多分ないですかね。

(調査部員)

今の時点で来年度も在籍するという予定の生徒もおりますので、その場合にはもう従来の教科書がない中で、学習活動を行っていくしかないかなと考えております。

(委員)

合わせて、その際、要するに書道Ⅰ 27番と28番ですけど、内容的に大きな違いがあるのでしょうか。

(調査部員)

書道Ⅰに関しては、内容的に大きな変更はありません。

(委員)

そうすると、5年次以上の従来の課程の教科書を使う生徒と、現行の課程で新しい教科書を使う生徒が、基本的に同じ授業を受けるということでしょうか。

(調査部員)

はい。

(委員)

そうすると同じ授業を受けても、大きく、指導する側として配慮しな

くても大丈夫ということによろしいですか。

(調査部員)

はい。

(部会長)

今の 先生のご質問にあった従来の課程の教科書を使うことは、定時制ではこれからしばらく起こることと思います。その時に従来の課程の教科書がなくなっても、従来の課程の教科書の内容とかストックなどは教員が持っているので、新しい教科書を使いながら、従来の課程の部分を教員が補助資料を作るというようなことを行うということによろしいのでしょうか。

(調査部員)

おっしゃるとおりです。私は理科ですけれども、従来の課程と現行の課程で内容が異なっている部分があります。補充で必要な部分は、従来の課程の生徒にはその分の補充が必要だと思っておりますので、その指導は行うことになります。

(部会長)

ありがとうございました。

それでは定時制についてご質問等、他にありますか。

[な し]

(部会長)

では、定時制の審議を終わります。定時制のお二人の先生、ありがとうございました。

(部会長)

では、続いて全日制の課程について審議を進めてまいります。

次第にある順番で進めてまいります。最初に、国語からお願いします。

(2) 全日制

① 国語

(調査部員)

1 年次の必修科目である現代の国語と言語文化の 2 科目の教科書については、継続です。現代の国語は、第一学習社の『高等学校 精選 現代の国語』、言語文化は、第一学習社の『高等学校 精選 言語文化』を選定しています。どちらも、明確に示された「学習のねらい」に沿って、具体的な活動を通して表現力や他者と伝え合う能力の育成ができるよう教材が設定されています。また、どちらも巻末の「資料編」が充実しており、授業で活用する機会も多く、生徒の深い理解を促す一助となっていることから、引き続き選定しました。

2・3 年次共通履修の選択科目である論理国語・文学国語・古典探究の 3 科目の教科書につきましても、継続です。本校の学習指導の重点「主体的に学習に取り組む態度の育成」にふさわしい教科書として、論理国語は、社会で生きるために必要な国語力を培うため、論理的な文章や実用的な文章を読み書きし、思考力や表現力を高めることに適した教材が、学習活動とともに配置されている三省堂の『新 論理国語』を選定しました。

文学国語は、我が国の言語文化に対する理解を深めるための知識・技能を体系的に学習できる数研出版の『文学国語』を選定しました。それぞれの作品の「作者解説」のページでは、学習した作家・作品に関連した書籍が紹介されており、教科書や授業から離れた場面での読書を促す契機として活用できます。古典探究は、時代・分野ともに教材がバランスよく掲載されており、段階を踏んで学習を進められるとともに、「古文の窓」「漢文の窓」でその単元にちなんだ内容のコラムが配置されており、多様な角度から関心を高めて読み深めることができる東京書籍の『新編 古典探究』を選定しました。

(部会長)

ありがとうございました。では、地理歴史科お願いします。

② 地理歴史

(調査部員)

地歴科は一昨年から開講した歴史総合、昨年度から開講している地理総合、世界史探究、日本史探究、今年度から開講する地理探究の 5 科目です。

歴史総合を学ぶ意義は、生徒が歴史と向き合い、「私たち」にとってよ

りよい社会の実現を視野にして「現代的な諸課題の形成」について理解し、その解決に向けて取り組むことにあります。その実現に向けて、現代的諸課題と歴史的関係について考察するための豊富な史資料が記載されており、メインクエストの解決に至るサブクエストが設けられて一つのテーマについて見通しを持ちながら他者と協働して学習に取り組むことができる山川出版社の「現代の歴史総合 みる・読みとく・考える」を継続して選定しました。

地理総合は、自学自習の精神の確立にふさわしいものとして、写真や図表と因果関係が分かりやすく、地理的な見方・考え方を働かせた学習ができるという理由で、帝国書院の「高等学校 新地理総合」を引き続き選定しました。

歴史的分野の探究科目では、本校のスクール・ポリシー、自学自習の精神の確立を鑑み、知識・技能・と思考・判断力を身につける学習、自学自習のしやすさを考慮しました。また、生徒が課題意識をもって主体的に学習に取り組めることや、歴史総合との接続が意識された記述が設けられていることから、世界史探究は実教出版の「世界史探究」、日本史探究は山川出版社の「詳説日本史」を継続して選定しました。

地理探究は、本校のスクール・ポリシー及び、自学自習の精神の確立という本校全日制の学習指導の重点にふさわしいものであること、豊富な写真や図表によって、地理的な見方・考え方を働かせた学習ができること、また最新の具体事例を数多く扱うことで、興味関心を高め、理解を深める工夫が成されていること、さらに系統地理の分野と地誌の分野の基礎的な知識を網羅したうえで資料や様々なコラムを作品と合わせて用いることで発展的な学習に無理なく進められるように工夫されていること、内容が精選されていることから、帝国書院「新詳地理探究」を継続して選定しました。

(部会長)

ありがとうございました。続いて公民科お願いします。

③ 公民

(調査部員)

公民科は公共、倫理、政治経済の3科目となっております。

まず、「公共」ですが、この科目に関しては、2年次生が全員履修することとなります。図版や写真などが本文上部にまとめて記載されており、

本文に関連する資料が見やすく、また、中学校で学習した用語には赤下線が引かれていて、中学校公民とのつながりが重視されています。合わせて、現代社会における諸課題を考えるためのトピックが多いので、数研出版「新版 公共」が本校生徒に最も適していると判断し、本書を継続して選定いたしました。

次に、「倫理」です。3年次生のための選択科目である倫理は、単元の始めに学習の観点を示したリード文と問いかけが記述されている点、各ページ右端に単元の学習観点がまとめられている点、また、多面的な視点で全体を把握することができる点から本校に生徒に適していると判断し、実教出版の『詳述倫理』を選定いたしました。

最後に、3年次生のための選択科目である「政治経済」です。適切な地図やグラフなどが豊富に掲載されており、本文記述も分かりやすく、さらに最新の社会問題なども興味・関心が持てるよう工夫されている清水書院の「高等学校 政治・経済」を継続して選定いたしました。

(部会長)

ありがとうございました。続いて、数学科お願いします。

④ 数学

(調査部員)

今年度から、すべての年次で、現行の課程になっています。1年次から3年次まで、数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・Ⅲ・Cで数研の新編を使用しており、すべて継続としました。

この教科書は、全体的に、基礎問題から応用問題まで段階的に学習できるよう工夫されています。生徒にとって、とても学習しやすい教科書になっており、本校のスクール・ポリシー及び自学自習の確立という本校全日制の学習指導の重点にふさわしいものと考えられるので、選定しました。それ以外の理由としては、3点あります。

1点目は、問題の解説が初学者にとって具体的でわかりやすくなっている点です。

2点目は、補充問題が充実していて、デジタルコンテンツなど、新しい要素も取り入れられており、自学自習にもつながる点です。

3点目は、例題と解答のレイアウトがとても見やすく、配色や図の示し方などが工夫されている点です。

以上の理由で選定しました。

(部会長)

ありがとうございました。次に理科、お願いします。

⑤ 理科

(調査部員)

物理、生物、化学、地学の4領域ございますが、いずれの分野の教科書も目録にある全ての教科書を対象として検討いたしました。本校のスクール・ポリシー及び自学・自習の精神の確立という本校全日制の学習指導の重点にふさわしいものという共通の観点に沿って、生徒の興味・関心を喚起できるか。自学・自習の助けとなるか。資料が明確で理解の助けになるか等の観点から選定を行いました。その結果、今年度、新規に選定した教科書はありません。

継続使用の教科書としては1年次の必修修科目として24番実教出版「化学基礎」の1冊を選定いたしました。2・3年次の必修選択科目として22番啓林館「高等学校 物理基礎」、26番数研出版「高等学校生物基礎」、28番第一学習社「高等学校地学基礎」、21番実教出版「科学と人間生活」の4冊を選定いたしました。2・3年次の選択科目として25番実教出版「化学 academia」の1冊を選定いたしました。3年次の選択科目として選定した23番の啓林館「高等学校物理」、27番第一学習社「高等学校生物」の2冊を加えて合計8冊を継続利用する教科書として選定いたしました。

(部会長)

ありがとうございました。次に保健体育お願いします。

⑥ 保健体育

(調査部員)

3冊の候補の中から、大修館出版「新高等保健体育」を選定しました。見開き2ページで1単位時間分の内容にまとめられているため、生徒にとって学習しやすくなっています。さらに、授業で得た知識を活用し、実生活に結び付けられるよう学習課題が提示されています。また、グループ活動で健康課題に対し議論することができるなど、主体的・対話的で深い学びに向けたものとなっており、生徒の学習を深められるものとなっています。そのほかにも、豊富なイラストや図表・写真の配置がと

ても見やすく、学習しやすく構成されています。以上のことから引き続き選定いたしました。

(部会長)

ありがとうございました。続いて芸術科お願いします。

⑦ 芸術

(調査部員)

はじめに音楽について説明します。1年次の必修選択科目の音楽Ⅰ、2年次生が次年度に選択する音楽Ⅱは継続の教科書になります。いずれも生徒の習熟度に応じながら主体的に学習していくのに最も適していると判断し、引き続き選定しました。

現2年次生が次年度に選択する音楽Ⅲは、より主体的な学習に取り組みますので、発展的にも一番適しているということで選定しています。この点を踏まえ、一番適切であると判断し教育芸術社の「Joy of Music」を継続して選出しています。

次に美術について説明します。1年次の必修選択科目の美術Ⅰは、継続の教科書になります。具体的なプロセス例が多く掲載されている光村図書「美術1」が、己の主題を見つけ出し、自ら調べ制作へ向かうことのできる本校生徒にとって、授業における主体的・対話的な学びを進めていくうえで最も適していると判断し、引き続き選定しました。

最後に書道について説明します。1年次の必修選択科目の書道Ⅰ、新2年次生が次年度に選択する書道Ⅱは、継続の教科書になります。いずれも生徒の学習意欲を引き出し、効果的な学習ができることから、継続して選定しました。

現2年次生が次年度に選択する書道Ⅲで選定する教育図書の「書Ⅲ」は、作品の表現効果や書の伝統を意識させる内容が特徴的です。また、図版は非常に豊富で学習の幅が広がるように工夫されている点から適切と判断し、継続して選定いたしました。以上です。

(部会長)

ありがとうございました。続いて、外国語お願いします。

⑧ 外国語

(調査部員)

まず、本校の教科テーマは、「外国語によるコミュニケーション能力4技能向上のための言語活動の工夫・改善」、「世界の多様な文化をもった人々と協働できる人材の育成」です。

英語コミュニケーションⅢについて説明いたします。英語コミュニケーションⅢは3年次の生徒が選択科目として履修いたします。

英語コミュニケーションは、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの4技能に加え、「話すこと」をさらに「やり取り」と「発表」の2つと捉えて5領域とし、言語活動を通じて5領域を総合的に扱うことを一層重視する科目として創設されました。この創設の意図を十分に踏まえ、4技能5領域を意識した統合型活動が適切に設けられ、様々な分野のテーマを身近な話題を切り口に、本校の生徒が関心・意欲を高く寄せながら読み進めることができるようになっていくことに加え、読んだ後には、生徒の思考力、判断力、表現力を伸長できる活動が設けられていることから、また学びの連続性を考慮し、既習事項からより発展的に学習ができるように数研出版「BLUE MARBLE English CommunicationⅢ」が本校生徒に最も適していると判断し、本書を選定いたしました。

論理・表現Ⅱは2年次、論理・表現Ⅲは3年次の選択科目になります。論理・表現は、話すこと、書くことを中心とした発信力を強化するため、統合的な言語活動を通じてスピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどを扱う科目として創設されました。この創設の意図を十分に踏まえ、「やり取り」「発表」「書く」の3領域を明確に意識させた活動がバランスよく配置されている点や、本校の生徒が学習したことを「目的・場面・状況」に応じて適切に使うことができるように工夫されている点で、また学びの連続性を考慮し、既習事項からより発展的に学習ができるようにデザインされています。大修館「Genius English Logic and Expression I, II, III」がインプットの量、コミュニケーションにつながる文法力、豊かな表現活動を段階的に学習できる内容となっていると判断し、本書を選定いたしました。以上です。

(部会長)

ありがとうございました。次に家庭科、お願いします。

⑨ 家庭

(調査部員)

家庭科は、家庭基礎、ファッション造形基礎、フードデザイン、保育

基礎の4科目です。すべて継続です。

家庭基礎は、1年次の必修教科目で、実教出版の「家庭基礎 気づく力 築く未来」を選定しました。「自立の4要素」や「グローバルな視点」という2つのキーワードが随所に見られ、生徒がSDGsを意識して自立を目指すための内容が工夫されており、本校が取り組んでいるESD(持続可能な開発のための教育)と自学自習の精神の確立という学習指導の重点にふさわしいものとして、引き続き選定しました。

ファッション造形基礎、フードデザイン、保育基礎の3科目についても、実教出版の教科書を引き続き選定しました。

基本的知識や技術の習得に加え、職業人として必要な基礎的な資質・能力を習得できる内容になっており、本校生徒に適していると判断し、継続して選定しました。

以上です。

(部会長)

ありがとうございました。続いて情報科、お願いします。

⑩ 情報

(調査部員)

情報科は、1年次で必修で受ける『情報Ⅰ』、2・3年次で選択をする『情報の表現と管理』、『ネットワークシステム』の3科目になります。すべて継続です。

『情報Ⅰ』は、人工知能・IoT・不正アクセス・情報漏洩についても取り扱いがあり、暗号化はイラストで平易化されていること、また、情報社会・デジタル・ネットワークの内容が單元ごとにまとめられており、深く理解させる内容も網羅しているところを評価し、実教出版「高校情報Ⅰ Python」を継続して、選定いたしました。

『情報の表現と管理』は、学習指導要領に沿った内容の文章に加え、図や写真を多数取り入れて、理解度が深まるように工夫し、解説しているところを評価しました。情報を表現するために必要な知識と技法を段階的にわかりやすく記述しているところも評価し、実教出版「情報の表現と管理」を選定いたしました。

『ネットワークシステム』は唯一、文部科学省著作教科書として発行されているもので、内容的にも必要な知識をわかりやすく記述していることから学習に適していると評価し、実教出版「ネットワークシステム」

を選定いたしました。以上です。

(部会長)

ありがとうございました。続いて、工業科お願いします。

⑪ 工業

(調査部員：)

製図、機械工作、自動車工学、電子機械、建築構造、建築計画、デザイン実践、デザイン史それぞれ、昨年度からの継続という形になります。

いずれも写真や図が豊富で見やすい点や口絵や巻末が充実している点、また、各単元の並びと繋がりがよく、生徒が理解しやすい工夫がなされています。

どの教科書においても、本校生徒の選択科目として理解を深めていくことに適していると思います。また、興味関心を深めて学習できるように工夫されている内容で基礎・基本の習得と思考力・判断力・表現力を養っていくために適切であると判断し選定しました。以上です。

(部会長)

ありがとうございました。次に、商業科お願いいたします。

⑫ 商業

(調査部員)

商業科は「ビジネス法規」「観光ビジネス」「財務会計Ⅰ」「原価計算」について説明します。

東京法令出版「ビジネス法規」は、課題解決意識を持って学習に臨めるように工夫がされていること、またビジネス活動における新たな課題に対して生徒同士が協働学習を通して思考力を深める学習内容となっていることから、本書を選定しました。

次に、東京法令出版「観光ビジネス」ですが、観光への取り組みがわかる実例と写真が多く掲載されているので、生徒が興味・関心をもって学習を進めることができる点、また主体的・対話的で深い学びの実現につながる問題が各所にあり、観光ビジネスに関わる思考を深められるように工夫されていることなどから、本書を選定しました。

実教出版「新財務会計Ⅰ」は、図表が多く取り入れられており、文章の表現も平易かつ簡潔で丁寧にわかりやすく書かれていること、また重

要な会計処理手続きについて関連する法令や会計基準の説明がなされ、手続きの根拠を理解する工夫がされていることなどから、本書を選定しました。

最後に実教出版「原価計算」は、図解などで色分けされているため視覚的にも理解しやすく記帳体系の流れや学習内容がイメージしやすいこと、また、グループワークや調べ学習の課題も掲載されており、思考を深める工夫がされている点などから、本書を選定しました。以上です。

(部会長)

ありがとうございました。最後に福祉科、お願いします。

⑬ 福祉

(調査部員)

社会福祉基礎、生活支援技術、こころとからだの理解、コミュニケーション技術の4科目、すべて継続となります。教科書目録に記載されている教科書は1冊なのですが、どの教科書においても、身近で豊富な事例が示されていることで、主体的に学習に取り組むように促し、職業人としての資質を身に付けられるように工夫されています。また、最新の資料が数多く使われており、図表も大変見やすく配置されていることから、本文の内容が理解しやすく、本校生徒が基礎的な知識や技術を習得し、思考を深めていくために適切であると判断し、選定しました。以上です。

6 質疑応答

(部会長)

ありがとうございました。以上13の教科で報告をしていただきました。これから質疑応答に入ります。

(事務局：)

事務局から1点、資料の訂正をさせていただきます。お渡しした資料の42ページですが、「英語コミュニケーションⅡ」の書名が「BLUE MARBLE English Communication I」になっております。こちら「Ⅱ」の間違いですので、お詫びして訂正させていただきます。

(部会長)

では、審議に戻ります。全体を通してご質問ご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(委員)

定時制の方で話題があったことと関連しますが、全日制は何年まで在籍が可能なのでしょうか。

(委員)

6年です。

(委員)

定時制は5年次生がいたということですが、今年度、全日制ではそれに該当する生徒はいないということでしょうか。

(委員)

はい。

(委員)

わかりました。続いて、特に情報とか工業とか福祉などの科目については、教科用図書は一つしかない、「唯一の教科書である」という中で選定をされているわけですが、変な話、今回は皆ふさわしかったということで選定されていますが、ふさわしくなかった場合に、これを選ばないということは可能なかどうかということ、あるいは、一つ選ばなくてはならないので、やりにくさが正直あるのではないかと思うのですが、何か工夫されていることがあれば、教えていただければと思います。抽象的な質問申し訳ありません。

(部会長)

文部科学省の検定を通っている教科書ですので、ふさわしくないということはほとんどないとは思いますが、先生方はそれぞれどのように工夫をされているかといったところの事例を少しお話しただけなのがよいのかなと思います。時間もありますので、私の方で指名をさせていただいて、お答えいただいてもよろしいでしょうか。先生、国語ではどうでしょうか。

(調査部員)

国語では使いづらいことはないのですが、他の教科書のこれがこの教科書にあったらいいのに、というものはありました。しかし、例えば論理国語とか文学国語では二次元コードで補助的な資料を示してくださる教科書も多いですけども、本校はそれを選定してしまして、例えば作品についての補助的なものとか、語句の説明とか、朗読CDのような形で再生できるような機能もついておりますので、そういうもので補填しながら授業を行ったりしております。以上です。

(部会長)

ありがとうございます。もう一つ実技系で聞いてみたいと思いますが、情報の 先生、いかがでしょうか。

(調査部員)

ネットワークシステムですけども、やはり文部科学省著作教科書ということで信頼をして選定をしていて、ただ今年度選択している生徒がいなくてまだ開講していないので、実際にこの教科書を使った授業はまだしていないのですが、もしこれがあったらいいのになってというのは当然あると思いますので、そこでは補助的なものを取り入れて、授業を行っていこうと思っております。

(委員)

今、お答えいただいた49の情報ネットワークシステムですが、文部科学省の著作教科書として示されています。ネットワークシステムの教科書に類するような文部科学省の著作教科書を見てみると、最近の教科書はどれも色鮮やかで見やすく工夫されているのに対して、この文科省著作教科書はかなりシンプルで、そういう意味で、生徒の興味を喚起することが難しいことはないかと感じましたが、何かお考えがあればちょっとお聞かせください。

(調査部員)

その場合には、プリントやスライドを使って授業を行うので、図を工夫するなど、生徒に分かりやすいように工夫をしています。確かに、図が少なかったり、色鮮やかでなかったりするところはあると思っております。だからと言って、使いづらいということはないので、授業者の工

夫だと思います。

(委員)

内容的には網羅されているので、それをどのようにわかりやすくするか、教員側の授業プランによって補充できると考えているということですか。

(調査部員)

はい。

(委員)

では、続けて種目番号 9 番 日本史探究ですけれども、版の大きな教科書を使っているということを一つの選定理由にされていますが、教科書の大きさに関するメリット、デメリットをどのように考えられていますか。

(調査部員)

まず大きな変更点としては、日本史は、従来の課程の日本史 B から、現行の課程では日本史探究という形になりました。教科書のサイズが大きくなり、史資料、特にイラストや史料文等が従来の課程の教科書よりも多く掲載されるようになりました。その理由としては、各テーマに大きな問いが設けられるようになっていて、その問いを解決していくための必要な資料ということで、資料が豊富になったということです。

以前までは説明としての記述の部分がメインになっていたところに、図などが掲載されることによってグループワークが円滑にできるようになったと感じております。

デメリットとしては、今年度の 3 年次生は受験で問われることになりましたが、まだ実際に受験をしていないので、まだその判断をしかねるところです。実際私が教えていて感じる場所は、知識量という面では覚えるべき単語の数が従来の課程よりも少なくなりました。覚える量が少なくなった分、話し合いに当てるようになりましたが、やはりその前提知識がない中で話し合っても、上手くグループではまとめられないということが、実際の授業の中で生じてしまっていたので、先ほどの話にも上がっていましたが、その点は、教師が補助的な資料を掲示するなど、対策をしていきたいと思っております。

(委員)

教科書の大きさについては、机の上に乗るのか、書くスペースと教科書のスペースとのバランスがどうかを単純に考えたんですけれども。

(委員)

特に問題はないと思います。

(委員)

わかりました。サイズについては、例えば理科などは、かなり小さい版から大きな版まで様々なサイズがあると思いますが、その大小関係が選考理由になることはないのかということ、国語はなぜB4なのか、つまり、字の大きさとか資料の大きさから考えるなら、A4の方が見やすいと単純に考えたんですけど、教科としての特性があるならば、教えていただければと思います。

(調査部員)

理科はサイズが大きくなっても内容的に増えるわけではなく、かえって大きな版は図が少なく簡便なものになってしまっていることが多いので、小さな版の方が内容的には本校に合っているということで選定しました。

(部会長)

大きさではなくて、内容で選んでいるということですか。

(調査部員)

そうです。図版がただそのまま拡大されているだけで、図が詳しくなったわけではありません。

(部会長)

国語はいかがでしょうか。

(調査部員)

国語は開いてA4になるサイズがほとんどです。手のひらサイズが読みやすいという個人的な考えもありますが、資料集も今までは開いてA

3になるタイプのものが多かったのですが、だんだん小さくなっていて、最近は教科書と同じサイズのもがよく出てきていると感じています。今、デジタル版というものもあって何年か前はそういう副教材で採用していたりしました。大判で示さなければいけないものが二次元コード化されて、それを生徒が好きな時にいつでも見られるようになってきているのがちょっと現代なのかなと思い、それらも含めて選定するように心がけています。

(委員)

教科書としてはかなり厚いものが多いですが、サイズが大きくなったら薄くなるかという、そうでもない気がします。教科書の大きさを記載されている教科があったので、そこは検討されているのかなと感じて、質問させていただきました。

続けて、教科書会社の継続性というところで伺います。例えば種目番号 26 番の生物基礎と 27 番の生物についてですが、物理関係は教科書会社が同じですけれども、生物については別の教科書会社になっているということで、この辺について何か不便さというか、整合性のなさや、やりにくさというのはないかという質問です。

先ほど英語では、論理・表現ではⅠ、Ⅱ、Ⅲと同じ教科書を使うことで継続的な担保が図られているというご説明がありましたが、生物と生物基礎との関係性というのは、どのようなものなのか気になり、質問させていただきます。

(調査部員)

物理、化学、地学などの計算を要する分野は、対義語や公式のまとめ方、定義のまとめ方等に差があるので、同じ教科書会社を使わないと継続性が悪いことがあります。生物についてはあまり計算を要さず、事象についての説明が非常に多いので、よりよいもの、よりその単元で素晴らしいものと考えますと、特に教科書会社が同じでなくても大丈夫だと思っています。

(委員)

ありがとうございます。社会科で言うと、社会科の歴史総合から日本史探究は同じ教科書会社で継続性という話がありましたが、世界史については教科書が違ってても特にその辺は問題ないということでしょうか。

(調査部員)

現状、特に問題はなく、授業もスムーズに行えています。

(委員)

社会科では学習指導要領に記載されている中身が書かれている教科書として、内容的に継続性を担保しにくいようなものはないと考えてよろしいですか。

(調査部員)

そうです。本校が選定する実教出版は、生徒の知識の習得能力などを鑑みても、専門的な知識をインプットしてそれをアウトプットができる教科書ということで教科書会社は違いますけれども、生徒の実情に合ったものだと判断して選定しております。

(委員)

ありがとうございます。最後の質問ですが、種目番号 17 番 21 ページの数学Ⅲで、選定理由書に「生徒が二次元コードを読み取るだけで、インターネットにリンクし」と書かれており、そこを読み取れば、自分で学習する材料が出てくるということですが、これを使っている生徒ってどのぐらいいるかリサーチしていますか。

(調査部員)

リサーチはしていませんが、実際に読み取ってアクセスすることで、資料や、イメージを持つことができるコンテンツが含まれていまして、実際、授業内でスマホをかざしてというように行っているわけではないのですが、このようなことができるという紹介をしたり、また授業内ではデジタル教科書でそのようなことを視覚的に教師側が行なっていることはあります。

(委員)

そうすると、選定理由書の中で、この教科書を選定した理由が二次元コードを読み取って発展的な教材で学習できることであるならば、それは積極的にPRして、生徒が利用したかをリサーチしないとこの教科書を使った理由がないのではないかと思います。少なくともどのぐらいの

利用率があるのかということを調査する段階の中で、やっぱりこれがあるからこの教科書を選ぶというところにつながるのではないかなと思うので、その後の追跡調査も必要ではないかなと思っています。

合わせてこの部分で、先ほど数学の説明の中でもありましたが、やはりわかりやすさとか、例題が精選されているとか、公式の証明が具体的である、ヒントがあるなどということが選定理由の中に入っている、いずれも与えられた問題に対してどう理解していくかというところになりフォーカスされていると思います。

一方で、選定理由書の中に、発展的な内容に興味を持って自ら学習するという記述もあり、今後の方向性としては、やはり自分で追究していくような生徒を育てたいということだろうと思います。わかりやすく説明されているものや与えられたものをこなしていくだけではなく、自分から新しいものにチャレンジしようとする生徒を育てる、それがスクール・ポリシーにある自ら学ぶということにつながると思います。中学校でもこの視点で授業改善がなされている中で、高等学校でも「こんな授業改善の事例がある」ということがあれば、教えてください。

(調査部員)

はい、教師からの一方的な授業ではなく、グループワークなどを取り入れて、生徒同士が一つの発問、また、教科書の題材を基に思考して、考えを発表するというような形で、深い学びにつながる授業展開も実践しています。さらに同じ数学科の教員同士でも情報交換をしながら、そのような授業をしていきたいと考えています。

(部会長)

校長として一言補足をさせていただくと、昨年、すべての先生方の授業を拝見させていただきました。数学も見ましたが、「工夫」という点については、提示された問題に対して、正しい答えが出せる力も当然必要で、その指導もされていましたが、生活の中にある題材を取り上げて、それをビデオ教材的に見せて、その中で出てくる数学的な課題を取り出して、みんなで考えるといった工夫をされている授業もありました。

数学は受験科目では重視されるところで、受験で点数が取れるようにということも当然必要なことだと思いますが、一方では、生活に根ざしたところから考え、数学がいかに生活に活用されているのか、役立っているのかという理解につながるような、そのような授業もありました。

これからもいろいろと考えて、授業実践されると思っています。

(部会長)

では時間も迫ってまいりました。委員の皆様一言ずつお話をいただきます。 さん、いかがでしょうか。

(委員)

ご苦労様でございます。

教科書の選定理由とは違う点で気になったことがありました。校長先生にお聞きするのか、文部科学省にお聞きするのかわからないのですが、商業の授業でビジネス基礎とか、マーケティング、ビジネス法規がある中で、「観光ビジネス」という一つの業界について学ぶ授業があるというのは、これから日本は観光立国として生きていく、観光に特化していくという舵切りがあるのでこのような授業があるのか、と単純に疑問になりました。以上です。

(調査部員)

そのとおりです。当時この科目を設定した理由として、やはり観光立国を目指す、インバウンドも増えてきた、という背景もあり、日本としては生産よりも観光にシフトをしていこう、というのが当時の理由だと聞いたことがあります。

(委員)

何年ぐらい前からこのような動きになったのですか。

(調査部員)

おそらく 15 年ぐらい前だと思います。

(委員)

ありがとうございます。

(部会長)

多分、あの議論はそれぐらいから始まって、平成 30 年度に現行の学習指導要領に改訂され、そこで初めてこの科目が設定されました。その前から色々な議論がされていました。

(委員)

ありがとうございます。

(部会長)

さんいかがでしょうか。

(委員)

感想です。今回初めてたくさんの高等学校の教科書の展示を見させていただいて、正直、内容的には全くわからず、色が鮮やかとか字しかないとか、その程度しかわからなかったのですが、その中から先生方がスクール・ポリシーに基づいて選定していただきました。もっと子どもに教科書を大事に、たくさん見るようにと伝えて、先生方のおかげでたくさん学べたらいいなと思いました。今回、一生懸命、生徒たちのために選んでいただいてありがとうございます。

(部会長)

この委員の中に保護者の方に入っている一つのねらいとして、我々教員がどういう思い、コンセプトで教科書を選定しているかということをぜひ知っていただきたいということがあります。さんもし違う場面で他の保護者の方にお話しただけの場面がありましたら、ぜひよろしくお願いします。

(委員)

正直、こんなに大変な思いをして先生方がやってくださっていると思わなかったので感謝しています。

(部会長)

ありがとうございます。

他の方はよろしいでしょうか。時間的にも大分詰まってまいりましたので、これで質疑応答は終了したいと思います。どうもありがとうございました。

7 答申内容の原案決定

(部会長)

それでは、答申内容の原案決定を行います。ただいまの審議を経まして、この内容で採択検討委員会に報告したいと考えますが、皆様よろしいでしょうか。

〔はい、という声あり〕

異議なしと認めましたので、この内容をもって採択検討委員会に報告いたします。それでは進行を事務局にお返しします。

8 閉会

（事務局： ）

部会長の 先生はじめ、皆様ありがとうございました。

調査部員の方は、ここで終了です。本日まで調査報告等作成をしていただき、ありがとうございました。

閉会后、16時35分から第1研修室で採択検討委員会全体会を行います。採択検討委員の皆様は準備ができるまで、こちらで待機をお願いいたします。

なお、くれぐれもお願いいたしますが、皆様の任期は8月31日までとなっており、情報公開されるまでは、委員の名前や審議内容も含めて全て部外秘ですので、情報の取り扱いには、十分お気を付けくださるようお願いいたします。

今後、教育委員会での審議に向けて、調査報告について再度ご質問させていただくこともあるかもしれませんので、その際はご協力をよろしくお願いいたします。